

Meiji Seika ファルマ株式会社

報道関係各位

2021年7月27日

新規β-ラクタマーゼ阻害剤 OP0595 (Nacubactam) に関する研究開発 ～AMED CiCLE 事業における中間評価結果について～

Meiji Seika ファルマ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林大吉郎）は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）課題として実施中の「新規迅速遺伝子診断法ならびに非臨床 PK/PD 理論を活用した新規 β -ラクタマーゼ阻害剤（OP0595）の単味製剤の研究開発」（以下、本課題）の中間評価において、研究開発実施計画書で設定されたマイルストーンの達成目標をクリアする結果が確認され、本課題の継続を可と評価されましたのでお知らせします。

薬剤耐性菌の出現と蔓延は世界的な脅威であり、日本国内においても「AMR 対策アクションプラン」のもと、対策が進められています。とりわけ、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌（CPE）は重症感染症治療における「最終兵器」とされるカルバペネム系抗菌薬が無効な耐性菌として大きな問題となっています。

OP0595（開発コード、国際一般名：nacubactam）は、Meiji Seika ファルマにおける感染症領域での創薬研究から見出された新規 β-ラクタマーゼ阻害剤です。従来の阻害剤とは異なり、AMR の耐性因子である β-ラクタマーゼを阻害するのみならず、同剤自体にも抗菌活性を有するとともに、組み合わせる β-ラクタム系抗菌薬を適切に選択することによって、ほぼすべての β-ラクタマーゼ産生菌に対応できる治療手段が提供可能となります。

本課題では、複数の β-ラクタム系抗菌薬と OP0595 の単味製剤を組み合わせ、それらの耐性菌感染症治療薬としての有効性ならびに安全性を確認することを目的として、薬事承認申請に必要なデータを取得します。

Meiji Seika ファルマは感染症のリーディングカンパニーとして、ワクチンによる予防から、抗菌薬による治療にわたるラインアップを充実させ、感染症のリスクから人々を守るため事業を通じて社会課題の解決に寄与します。

以上

【参考】

- ◆ 医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）について
日本医療研究開発機構（AMED）のホームページ（下記URL）をご参照ください。
<https://www.amed.go.jp/program/list/index07.html>